福島市・特定非営利活動法人ビーンズふくしま

対し、助成を行っています。 体などが行う民間の創意工夫ある活動などに 生活を送れるよう、NPOやボランティア団 害者などが地域のつながりのなかで自立した 国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障 う社会福祉振興助成事業(WAM助成) 独立行政法人福祉医療機構(WAM)が行 は

利活動法人ビーンズふくしまの取り組みを紹 今号では、WAM助成を活用した特定非営

子ども・若者の自立を支援 生きにくさを抱える

こもりの子ども・若者などに安心できる居場 所を提供し、寄り添いながら、ゆるやかな社 社会をつくる」ことを目的に、不登校やひき 若者が、自ら望む姿でつながることのできる んでいる。 ふくしまは、「生きにくさを抱える子ども・ 会参加を促し、 福島市にある特定非営利活動法人ビーンズ 自立を支援することに取り組

療機関、 同法人の活動は、平成11年9月に行政や医 大学、保護者、学生等の支援を受け、

> ごせる居場所と多様な学びの機会を提供し、 得した。 しており、 主体的に生き方を選択できることをサポート したことに始まる。子どもたちが安心して過 フリースクール「ビーンズふくしま」を設立 平成15年7月にNPO法人格を取

援センター」などを運営し、地域の関係機関 事業では、「地域若者サポートステーション」 場所を運営し、福島市内の子どもの居場所づ 災の復興交流拠点となる「みんなの家」、子 や「こころの相談室」、「福島県ひきこもり支 くりの支援事業を行っている。さらに、相談 ども食堂「よしいだキッチン」など多様な居 と連携しながら相談対応や就労支援に取り組 スプレイス事業」、子育て支援や東日本大震 さまざまな悩みを抱える若者の居場所「ユー んでいる。 にした学習支援(福島県委託事業)のほか、 現在の主な活動は、 生活困窮世帯の小学生から高校生を対象 フリースクールをはじ

之氏は次のように語る。 同法人の活動について、 事務局長の中鉢博

事業」を実施した。

「学習支援では、 車など交通手段をもたない生活困窮世帯 福島県は広域なこともあ

り、

生活困窮世帯の子どもの居場所と 体験活動事業の他、福島県という広域 で子どもが分散している環境でのア ウトリーチ型学習支援を行いまし 同事業を実施するなかで、地域資源 や関係機関等と連携することにより 支援ネットワークが構築されました。 また、生きにくさを抱える子どもの '育つ力"を引き出しながら伸ばして いけるよう、生活困窮世帯の子ども に不足しがちな生活体験や社会体験 を提供することで、子どもたちの自 己肯定感が高まるなど、具体的な成 長に繋がったことを高く評価します。

WAM n5

"育つ力"をもっていますが、その力を発揮で き出しながら伸ばしていくことを基本方針 生きにくさを抱える子どもの。育つ力。を引 運営しています。本来、子ども・若者たちは 居場所や、 立ち上がり、子育て世帯の親子を中心とした 型の学習支援を基本としています。また、『み しています」。 きないのは社会のほうに課題があると考え 放課後児童クラブなど、さまざまな居場所を いた親子の孤立化を防止するための交流会 んなの家』は東日本大震災の復興事業として の子どもへ支援を届けるためにアウトリー 県内外を含めて避難生活を送って

支援に取り組む

同法人は、平成30年度のWAM助成を活

困窮世帯の子どもを対象にした

ざまな体験活動 提供 や体験に 者自立支援事業は学習支援が で生計を支えて 対象にした居場所を運営するとともに、 想 したまま 大きく、 子ど が は 0 ること 子どもは学習だけ |不足 いすることを目 課題としてありまし V b そ が まで支援に関 が多く見 の大半が では健全な発達につな より育ちますの に を あ 対象 幼少 ń よる子ども 歌を実施、 期に必要な生 に 助 ١, 、るた 成事業で 受けられ 母子家庭 的 た居場 に でなく、 わ め、 0) た。 自己肯· って で、 木 は、 所 仕 ま で 窮 活体験 準要保 z その 行政 ず。 世帯 を 中 事 さまざまな情 た生 生活 **らがらな** 定感の や育児 運営するとと 心となり 部分 0 母 0) 生活 護 É 親 活 子 木 困 ١, が 低 社 の Ö 世 窮 欠落 さなな 世 لح ま 困 会体 負 لح 帯 さま 窮 b

担

木

で 世

> 気づ うことに取り組 きを得ることで自己肯定感を高 みました」(中鉢事務局 めて 長)。

b

を

県内 3 屰 所 居場

開催し 営は、 る福 30 島 窮 交通 た 年 県 世 4 0 帯 Ш 月 0 0 俣 便 子 (町 ども 31 が 年3 悪く孤立 桑折 を対 月 前 象に の 期 L 新地 間 した居 が ちな 12 町に 計 地 場 1 お 1 域 所 V غ 8 0 運

学習支援ス 以は次の 場 所 σ タ ように説明 実 ッ 施 フ 体 制 助 と活 Ĵ 成 為事業 ... 12 担 0 当 7) 者 て、 0 同 法

人

操 す 窮

居

和氏

事業概要 助成額 103万円 大野 見

帯

0

基

本 開 居

V

も

さ

ま

ざまな

験

活動

の

機会を提供

する

週

により、

子どもたちが互

V

に協力し

あ

木 毎

土

曜

所を運営

て、 口

平

成

的 催 場 は 所 に

平成 30 年度事業

特定非営利活動法人ビーンズふくしま

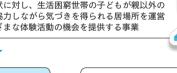
生活困窮世帯の子どもを対象にした居場所は、県内3

カ所で計 118 回開催し、延べ 599人が参加した

困窮世帯の子どもの居場所と体験活動事業

【事業概要】

生活困窮世帯の子どもは、母子家庭が多く、母親の仕事や育児 の負担が大きいために、幼少期に必要な生活体験や社会体験の機 会が少ないという現状に対し、生活困窮世帯の子どもが親以外の 人と関わり、互いに協力しながら気づきを得られる居場所を運営 するとともに、さまざまな体験活動の機会を提供する事業



【実施内容】

◆生活困窮世帯の子どもに対す る居場所の運営

福島県の川俣町、桑折町、新 地町において生活困窮世帯の 子どもを対象にした居場所を 運営し、人との関わりを通し て子どものソーシャルスキル やコミュニケーションスキル の向上を図る



◆体験活動の実施 生活困窮世帯・ひとり親世帯 の子どもが不足しがちな生活 体験・社会体験を目的に、さ まざまな体験活動を実施

【成果】

- ◆平成30年4月~31年3月の期間に、居場 所を計 118 回開催し、延べ 599 人 (子ども 453 人、保護者 146 人) が参加した
- ◆全 14 回実施した体験活 動では、外出体験をは じめ、そば打ち、パン づくり、デザートづく りなどの調理体験、季 節行事などのイベント を実施し、延べ 76 人(子 ども61人、保護者15 人)が参加した
- ◆参加した子どもたちは居場所や体験活動を通 して、人との接し方や会話をする経験、自分 の気持ちを相手に伝える力を身につけ、自己 肯定感を高めることにつながった

保護者も、子どもと関わる楽しさや、我が 子の長所にあらためて気づくなど、気持ちに 余裕が生まれて子育てに自信をもてるように

◆本事業を実施するなかで、地域資源や関係機 関、ボランティア等と連携を行うことにより、 地域のなかで子どもたちの育ちを支えるきっ かけとなった

くる どを す 0) H 応 じ は 加 Ō 読 子 俫 3 ることでソ 0) て関 文化的 ども 育士 み聞 時 活 週 子どもたち 者 子どもの 間帯に 能力の が 用 3 P わ か |などの資格をも L П Ď 緒に会食を楽しみ 活 ・スタッフが せ て、 ٤ 実施 や工 向 1 動 発想を大 子ども で行 子 Ŀ の様子を見守り シ 作 各地 ヤ どもたちが学校 しまし ル 0 う スキ たちが な Œ 音 切にしなが 域 た。 げることを目指 か、 楽鑑賞、 緒に遊んだ の つ 公民 ル ス 親以 ジまし 居場所に 調理体験 Þ タ な 館 コ 5 いから帰 た。 ッ 3 外 が 学習支援 B り、 5 フ 個 ユ \mathcal{O} 必要 同 を ス ٤ は ٤ 宅 タ 絵 配 教 ケ 年 つ ま 接 ッ



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約 によって保護されています。版権者(独立行政法人福祉医療機構)ならび 権者の許可を得ない複製(コピー)、再配布を、固くお断わりいたします。 版権者(独立行政法人福祉医療機構)ならびに著作

加があった。 も延べ453人、 協力してもらうことで、 小中学校、 や支援団体、 ている子どものほか、 層が幅広く、 居場所の参加者は、 民生委員などに対象者への周知を スクールソーシャルワーカー、 同法人が日頃の活動から関わっ 保護者延べ146人) 地域の社会福祉協議会 幼児から高校生と年齢 延べ599人 (子ど の参

> 取り入れ、具体化することで継続的な参加に ら提案のあった「やりたいこと」を積極的に つながったという。 居場所の活動では、 参加した子どもたちか

体験活動の機会を提供 さまざまな

生活困窮世帯やひとり親世帯の子どもが不 足しがちな生活体験

たり、 りなどの調理体験、 づくり、デザートづく やパンづくり、 験をはじめ、 る店を見学する外出体 も関連の施設に出かけ もが自分で切符を買 に計14回実施した。 望があった活動を中 参加した子どもから要 体験活動は、 することを目的とした 社会体験の機会を提供 体験活動では、 電車に乗って子ど 自分の興味のあ そば打ち 居場所に ランチ 子ど 心

が参加した。 61人、保護者延べ15人) 延べ76人(子ども延べ 体験活動では、 家庭

ば打ちやパンづくりなどの調理体験を行う子

家庭では玄関に靴を脱ぎっぱなし にしている子どもが、居場所や体験 活動の際には靴を揃えるなど、普段 みることのできない子どもたちの 姿があった

ベント体験を実施し、

ン、誕生日会などのイ

リスマスやバレンタイ

家庭の食卓にのぼらない食材を初めて口に ため、とくに食に関する活動の満足度が高く で調理をしたことのない子どもが少なくな た子どもたちも多かったという。

気持ちを伝える力を身につける 人との接し方や

ると、 かで、 もが、 子どもたちの姿を発見できたことが印象的 学習支援などで生活困窮世帯の自宅を訪問 す。この『何かをやってみたい』という意欲 ことに挑戦して成功体験や失敗体験をするな 認めあうようになったり、 分のことをみて』という要求が多かった子ど ちを相手に伝える力を着実に身につけてきて ら靴を揃えるなど、普段見ることのできな 影響もあり誰かに言われるのではなく自分か ですが、 います。 は自己肯定感の高まりにもつながると考えて いることを実感しています。 した」(大野氏)。 い。と、 人との接し方や人と話す経験、 「居場所や体験活動を通して、 玄関に靴が散乱していることが多い 周りの子どもたちをみながら、 『次にやるときにこのように工夫した 居場所や体験活動の際には、 さらなるステップに踏み出せてい また、子どもたちの行動をみると 体験活動で新しい 最初の頃は 自分の気持 子どもたち 周りの 百自 ま

る保護者が、我が子がほかの子どもと笑顔で は自分の子どもだけをみて「どうしてうち 子はできないのだろう」と悲観的になってい に居場所や体験活動に参加することで、 さらに、子どもだけでなく、 保護者も一 緒



どもたちにとって貴重な経 たちが体験活動のことをず 子どもが通う小学校の先生 と話す機会があり、 と話していたと聞 月 活動に参加 子ども 3

地域のなかで

支援をつくる

ビーンズふくしま

平成30年度のWAM助成で

は、生活困窮世帯の子どもの居場

事務局長 中鉢 博之氏

特定非営利活動法人

助 成 事業

心して利用できる居場所の 生活困窮世帯の子どもが安 の成果として、 生きづらさを抱える人たちの

運営とともに、

さまざまな

体験活動を通して、

子ども

気づきを得ることにつなげ たちの自己肯定感の向上や

ることができた。

子どもの育ちを支えるきっかけに のなか C

余裕が生まれ、

自分自身や子育てに自信をも

の長所

にあら

ためて気づ

V たり、

気持ちに

楽しさや我が

つことにつながったという。

源や関係機

関、 同

ボランテ

ア等と連

携して取

さらに、

事

業を実施

するな

か で、

地域資

組

むことにより支援ネッ

1

. ワー

クが構築さ

地域のなかで子どもたちの育ちを支える

外出体験では、子どもたちが自分たちで切 符を買い、電車に乗って子ども関連の施設 見学に出かけた

どもと接する 子をみて、 遊 んで V る 子 様

氏)。 ٤ ることを心配しており、 さまざまな食材を食べる経験をして 出てきても、

の重要性をあらためて実感しました」(大野 小学校に入学して給食でいろいろな食材 口をつけられない子ども ただきました。 食に関する体験活動 家庭で いな が

が

特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

ことに対し、

子どもた

学習支援スタッフ 大野 見和氏

> 先生からは当法人が うかがえました。

体験活動をして

る

験になっていることが

きっ

かけをつくることが

。また、

いるとおっしゃ

・って

のよい経験にな

つ

て

所づくりと体験活動を地域の関係 機関と連携して取り組むことによ り、地域のなかで子どもの育ちを支えるきっかけをつくる

ことができました。 事業を通じて、当法人が居場所の運営にとどまらず、学 習支援や生活支援などさまざまな支援に取り組んでいるこ とが、学校をはじめ、行政や関係機関に周知されたことで、 学習支援の依頼が増えるという効果も出ています。

その一方で、依頼が増えることでスタッフの負担が大き くなり、支援できる範囲が限られるなかで、ニーズに対す るリソースの不足が新たな課題となっています。生活困窮 だけでなく、なかには不登校やひきこもりなど複合的な課 題を抱えている家庭も少なくありませんので、関係機関と 連携しながら、生きづらさを感じている人たちへの支援を 地域のなかでつくることを模索していきたいと考えていま す。

◆団体概要

〒960-8066 福島市矢剣町 22-5 TEL / FAX: 024-563-6255 URL: https://beans-fukushima.or.jp/

設 立: 平成 11 年 9 月 理事長: 若月 ちよ

して、 期待される。 を支える同法人の取り 活体験・社会体験の機会 しているという。 が全国に広がることが 居場所や体験活動 幼少期に必要な生 į 子どもの育ち を

により、 する取り組みがスタ ども食堂を開催してもら に始まった連携とし できた。 社会福祉協議会の協力 助成事業終了後に新 参加者に食事を提供 居場所の活動終了 同じ建物内で子 後 7

社会福祉振興助成事業に 関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課(助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等) TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課(助成事業の広報、事業評価等)

NPO等の民間福祉活動への応援よろしくお願いします!

当機構では 寄付金を募集 ています



お問合せ先:03-3438-0211(総務部総務課)

